大阪 歯科
保険医新聞

4/25
2017年第1265号
（毎月5、15、25日発行）

大阪府歯科保険医協会
発行人　志岐　敬
大阪市浪速区幸町1-2-33
電話(06)6568-7731(代表)
http://osk-net.org/
●定価・年間10,000円　月1,000円
●1977年5月23日第三種郵便物認可

保険医療守るために

5・28定期総会　小澤理事長が参加呼びかけ

協会は第53回定期総会を5月28日、大阪市内で開く。17～18年度方針などを決める。小澤力理事長（写真）が参加を呼びかけている。

7～16面に議案

平素は協会活動に、ご理解ご協力をいただきありがとうございます。

協会は第53回定期総会を5月28日に開きます。

国民の歯科受診動向は、時々の経済状況や社会保障制度に大きく影響を受けます。とりわけ政府の経済財政諮問会議による「経済・財政再生アクションプログラム」「経済・財政再生計画改革工程表」に沿った医療・介護分野での保険料・患者窓口負担増と診療報酬の引き下げは、国民と地域医療に大きなダメージを与えています。

4月からは要支援1・2の人の訪問・通所サービスが介護保険から切り離されました。今国会では、利用料の3割負担化を含め、さらなる改悪案が成立させられようとしています。

大阪府では福祉医療費助成制度の対象範囲の見直しや自己負担増が目論まれています。国保料の大幅値上げも予定されています。

来年は政府が医療抑制の正念場と公言する、医療・介護の同時改定を迎えます。総務省の2月発表の家計調査では、3年連続で消費支出が前年割れし、国民の生活は苦しさを増しています。地域医療と医院経営を守る運動がますます必要です。

協会の地区活動、学術、経営税務、共済、社保審査等には、多くの会員にご参加、ご利用いただきました。

総会では医院経営と保険医療を守り、会員の役に立つ、魅力のある協会活動にするため、皆様からご意見を伺い2年間の方針を決定します。ご参加をお願いします。

「保険で良い歯科」実現へ

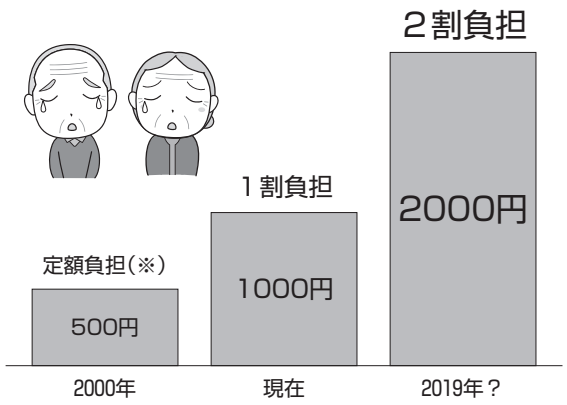
新請願署名スタート　ご協力お願いします

協会は、2018年度の診療報酬改定へ向け、「保険で良い歯科医療」の実現を求める新しい請願署名に取り組む。請願項目は、▽窓口負担の軽減▽保険のきく範囲の拡大▽歯科医療費の増額――の三つ。

健康長寿社会に向けて歯科医療の役割が重要になる一方で、経済的理由による未受診や受診中断が増加。「口腔崩壊」という深刻な事態まで広がっていることから、いつでも、どこでも、誰もが、お金の心配をせずに受診できる「保険で良い歯科医療」の実現が喫緊の課題となっている。署名用紙は今号同封。協会は多くの会員の協力を呼びかけている。

第一次締め切りは5月末。全国保険医団体連合会の中央要請行動で地元選出議員を通じて提出する。

医療費が1日あたり1万円かかった場合の窓口負担額（75歳以上、一般所得）



※1日500円、月4回まで負担

「共謀罪」廃案へ声明

理事会　〝刑法の大原則を変質〟

協会は2017年度第1回理事会を8日に開き、国会審議中の「共謀罪」法案に対し、廃案を訴える声明を発表した。

同法案の問題点について、「行為を罰する」という刑法の大原則を変質させ、内心を取り締まることや、捜査機関の判断であらゆる個人・団体が処罰対象となり得ること、一般市民への日常監視を合法化することなどを指摘。「思想信条の自由やプライバシー権を侵害する重大な危険性がある」と批判した。

その上で、政府が憲法改正や「戦争する国づくり」と一体で同法案の成立を進めていることを示し、「表現の自由を奪う暗黒政治への道を許さない」として、法案の廃案へ力を合わせることを呼びかけた。

外来環研修会開く

受講者に修了証発行

社保研究部は「歯科外来診療環境体制加算の施設基準に係る研修会」を8日、M&Dホールで開いた。足立了平氏（神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科教授）を講師に、110人が受講。受講者には、施設基準の届出に係る修了証を発行した。

講演では、①偶発症に対する緊急時の対応②医療事故③感染症対策――を解説した。

緊急時の対応は、全てのスタッフが、偶発症についての知識・技術を共有し、足並みを揃えることが重要であると指摘。医療事故の防止では、ヒヤリ・ハットを含めた医療事故事例の集積と原因分析が重要で、個人責任の追及に終始しないことを強調した。

感染予防では、ユニバーサルプリコーションが原則であるとして、手洗いを励行。ラッピングなどへのスタッフの意識統一も重要と話した。

第53回定期総会

5月28日(日)　12：45～19：10
（於：ホテル大阪ベイタワー4階）

総会議事　12：45～14：15
記念講演　15：00～17：00
（詳細は同封の案内チラシ参照）
レセプション　17：10～19：10

議案①情勢、15・16年度活動まとめ、17・18年度活動方針案②16年度決算報告案、監査報告③16年度収支差額処理案④17年度予算案⑤事務局長・名誉役員の承認

第53回通常評議員会

5月20日(土)　18：00～20：00
（於：M&Dホール）

議案①情勢、15・16年度活動まとめ、17・18年度活動方針案②16年度決算報告案、監査報告③16年度収支差額処理案④17年度予算案⑤理事・監事選出

ストップ患者負担増⑧

75歳以上、2割負担検討

医療費支払い

政府は75歳以上が加入する後期高齢者医療の窓口負担の原則2割化の是非について検討を進めている。2018年度までに結論付ける予定。低所得の高齢者への負担増は受診抑制と健康悪化を招き、重大だ。

引き上げ計画は、後期高齢者の窓口負担を原則1割（現役世帯並みは3割）から原則2割に引き上げる。財務省や日本経団連などが積極的に導入を提言。経団連は現役世代との「公平性」を口実にする。

しかし、高齢になれば受診機会は増えるが、年金収入は減る一方だ。負担増は高齢者の特性や経済状況を考慮しない、医療費抑制や負担増ありきの議論だ。

医療費の窓口負担をめぐっては、70歳以上の負担増は01年に定率1割負担を導入。70～74歳は14年4月以降に70歳になった人から2割負担を実施した。政府はこれにあわせて75歳以上も2割に引き上げを狙う。

医療や介護の出費によって「老後破産」がクローズアップされる。これ以上負担が増えれば生活破壊を招くのは必至だ。患者負担増計画の中止・撤回が強く求められている。

（おわり）

おことわり

本紙5月5日付は、ゴールデン・ウイークに伴う印刷・発送体制の都合から、休刊します。

歯界

8億円値引きから始まった事件の患部は広く近隣臓器に浸潤しており、病巣の芯は深く、SNSなどメディアの多様化で大型劇場化してきた。

事件の中心部は教育学校業だが、政界、官界とつながっており、深部では共通の扇動的なナショナリズムが脈々と流れている。どこの国や地域や民族にもある古い神話が日本では幕末に粉飾再流行して、倒幕維新の動乱の中に飲み込まれたが、近代化で絶滅することもなく、生き延びて時々頭を持ち上げる。団体組織の中で異論者を許さぬ暴力は弱者に向けられる。

個人に優しい緩やかな組織は大義や目的のために排除される。この暴力肯定思想は教育、スポーツなど団体の中で健在で時々露呈する。根の深いこの事件は、大規模強盗団に内部抗争が生じるように、今後の推移の中で、誰かが生き延びるために誰かをトカゲの尻尾として切るだろう。

過去の例のように自ら命を絶ってしまう者が出ることを危惧する。